

ゆきのさと自由が丘通信

《2021年4月、小学校開校をめざして》

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

／北海道に「自由な小学校」をつくる会（口座名称「ゆきのさと自由が丘学園をつくる会」）

札幌市豊平区月寒東 1-15-5-11 ☎(011)858-1711 <https://www.hokjioka.net/>



校舎貸与決定！次は認可へ



これまでB町としていた長沼町と、5月1日付けで閉校舎貸与に関する『協定書』を交わし、「北長沼小学校の2021年4月からの校舎貸与」が確定しました。下記のように5月17日付け道新報道等もありましたが、学校づくりの運動は、校舎が確定し、大きな一山を越えました。しかし、実はここからが正念場です。次のステップは、認可に向けての母体資金集めです。大急ぎで精力的に取り組み、もう一つ大きなジャンプをしなければいけません。道庁学事課との調整も行っています。



学校法人認可さらに学校設置認可に向けて、個人・企業をあわせて大いに支援を募り、目標をめざします。これまで以上に支持者・支援者の皆様のご協力・PRで支持を広げ、何としても認可にこぎつけなければいけません。ただし、前号でも触れたように、私たちの活動が、今年度進行している北長沼小学校の教育活動の障害にならないよう十分に配慮しなければいけません。



＜きのくに子どもの村学園長：堀真一郎さんからのメッセージ＞



よかったですね。皆さんによりしくお伝えください。いろいろと必要な情報があればお知らせください。何はともあれ、よかった、よかった。

堀真一郎

北海道新聞
第3種郵便物認可

2億円確保が課題

開校を自任す「ゆきのさと自由が丘学園（仮称）」は、1学年の定員を20人と想定。農業や演劇など、体験型の授業を充実させる方針。同法人は、偏差値で序列を付けるのではなく、「ゆきのさと自由が丘学園（仮称）」開校に向け制作中のパンフレット

開校について「子どもと保護者、教職員など地域で過ごす人が増えることで、地域活性化につながってほしい」と期待する。

道内にある私立小は現在約2年かかるといふ。

長沼に私立小開校計画

札幌のNPO 北長沼小活用 21年に

【長沼】札幌でフリースクールを運営する認定NPO法人「北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会」（吉野正敏代表理事）が、空知管内長沼町に私立の小学校を早ければ2021年に開校する準備を進めている。20年春に閉校する北長沼小を活用することで長沼町と協定を締結した。開校に向けた2億円を寄付で集める方針で、資金確保が大きな課題となる。

（野呂有里）

子どもの自主性を養う教育に力を入れており、札幌市豊平区で運営するフリースクールには現在、小中学生約20人が通っている。

より多くの子が学ぶ場を設けようと、3年前から開校に向け活動。20年春に町内の5小学校を1校に統合する長沼町と協議し、閉校後の北長沼小を町が無償で貸与する協定を1日、結んだ。町と合同で町内で住民説明会も行った。町は学校

必要資金2億円はホームページなどで募っており、吉野代表理事は「子どもの可能性を最大限に伸ばす場をつくりたい」としている。



新設校の候補地となっている北長沼小学校
(長沼町提供)



「市民立」：1人1万で1万人の支援づくり！

引き続き、①署名（現在 2600 筆）の継続とともに、②「つくる会」への入会（1000 円／年）呼びかけ、③資金集め（予約金を含め）に、ご協力くださることを、改めてお願いいたします。これはという企業にもどんどん呼びかけてください。一口 1 万円で 1 万人の支援があれば 1 億円になります。企業には十口以上を希望しますが、特定の大ロスポンサーが教育内容まで支配するようなことになってはいけません。広く多くの人々の支持の上に成り立つ「市民立」の学校をめざします。まずは、1 千万を早急に達成へ。目安 5 千万以上で、クラウドファンディングを準備します。

夏休み（8 月前半）には、「長沼交流イベント」（1 泊？）を計画・実施したいと思います。自由な教育に関心がある、入学を検討したい、という市民・親子を対象に、学校の理念や内容をお伝えするシンポジウムや、町巡りと特色あるミニ体験を検討しています。

9 月には、学校法人認可に向けて学校運営計画を北海道庁学事課に提出。さらに学校開設認可に向けて母体資金形成のため募金活動を継続します。来年には小学校設置の認可を申請し、私学審議会に諮ります。

郵便局口座番号：02760-7-103252

口座名称：ゆきのさと自由が丘学園をつくる会

【他行からの振込みの場合、店名：279、預金種目：当座、口座番号：0103252】



<最近のニュース>

道新の記事が出た後、自由が丘月寒センターを訪ねてきた小学生と母親が「長沼町移住を考えています！」とのこと、まだ確定ではないので慌てずに、と吉野がブレーキをかけるほどの様子だったそうです。

また、募金については、さっそく支持者の方々から一口、二口と支援が届き、少しずつ資金形成が始まっています。25 日集会（右記）でも募金支援の申し出を受けました。ありがたいことです。

パンフレットについても、長沼町の「ごはん屋『野歩』」さんが店に 80 部ほど預かって、お客さんなどいろいろな人に PR してくれることになっています。また、別に 200 部ほど預かり、配布したいと言っている地元の方がいます。

綿谷関係では、呼びかけ人依頼で複数の承諾を得ている他に、広いネットワークとフットワークを生かし、多方面にパンフレットを精力的に配布しています。

6 月 1 日（土）の札幌市西区の集会でも、周囲に広めてくださる方には多めにお渡しできるようにします。 ※詳しくは当日レジュメにて



<事務局ニュース>

5 月 23 日（木）に、吉野、細田が道庁学事課を訪問し、認可手続きや期限について説明・相談をしてきました。今後も引き続き相談・助言をお願いすることになっています。

その後、綿谷も加わり、記者クラブで1 テレビ局、3 新聞社の取材を受けました。これまでの活動、長沼町の校舎貸与協定の経緯、教育内容、とりわけ「きのくに」と違う「ゆきのさと」の北海道の教育としての特色、保護者や集会参加者の思いなどについて、説明をしてきました。記者の方々も、既存の学校教育のあり方の行き詰まりに一石を投じる「自由な学校」創設の動きに、大きな関心を持ったようでした。

内容は、28 日（火）7:45 の NHK 北海道ニュースで放送されました。ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。新聞も近々、記事掲載になると思います。みなさん周りの人にもどんどん PR して支持・支援の輪を広げてください！

25 日（土）には、細田が北海道地域・自治体問題研究会に参加し、自由な小学校づくりを説明してきました。出来立てのパンフレットを配り、60 名を超える参加者の方々の多くの共感を得ました。その日に募金支援の申し出も受けました。また、26 日（日）には、吉野が「子どもの権利条約市民 NGO の会」に参加し、パンフレットを配りながら学校づくりの活動の説明をしました。

（尚、この週は別の 2 団体にも配布）